

ワークショップの進め方について

目次

1 ワークショップの運営方針	1
2 ワークショップの目的とシナリオ	2
3 ワークショップの内容	3

1 ワークショップの運営方針

【ワークショップの開催回数】

- ・ワークショップは3回を予定し、「集落点検」と、「集落元気づくり」の検討を行う。

【ワークショップの参加者】

- ・ワークショップの参加者は集落の住民と、必要に応じて外部からの支援者（他出者、学識者、地元事業者、NPO、行政等）も含めて実施する。

【ワークショップ開催の留意点】

- ・ワークショップ開催にあたっては毎回目的を参加者に伝えてから開始する。
- ・円滑な話し合いのため、適時参加者を5～8名の小グループに分ける。
- ・世帯代表だけでなく、女性、子供も楽しく参加できるよう配慮する。
- ・ワークショップはその都度完結することに留意し、途中からの参加がしやすいよう配慮するほか、毎回の結果を参加者同士が共有しあえるよう、成果の発表（フィードバック）を行う。
- ・ワークショップの最後に参加者へのアンケート調査を実施し、内容の補足、次回のワークショップ開催に向けた情報を収集する。

ワークショップの開催テーマ

第1回 現状の問題を見てみよう

世帯毎の家族構成・後継者（他出者含む）や集落の資源を把握することで集落の現状を共有

第2回 自分たちの10年後を考えてみよう

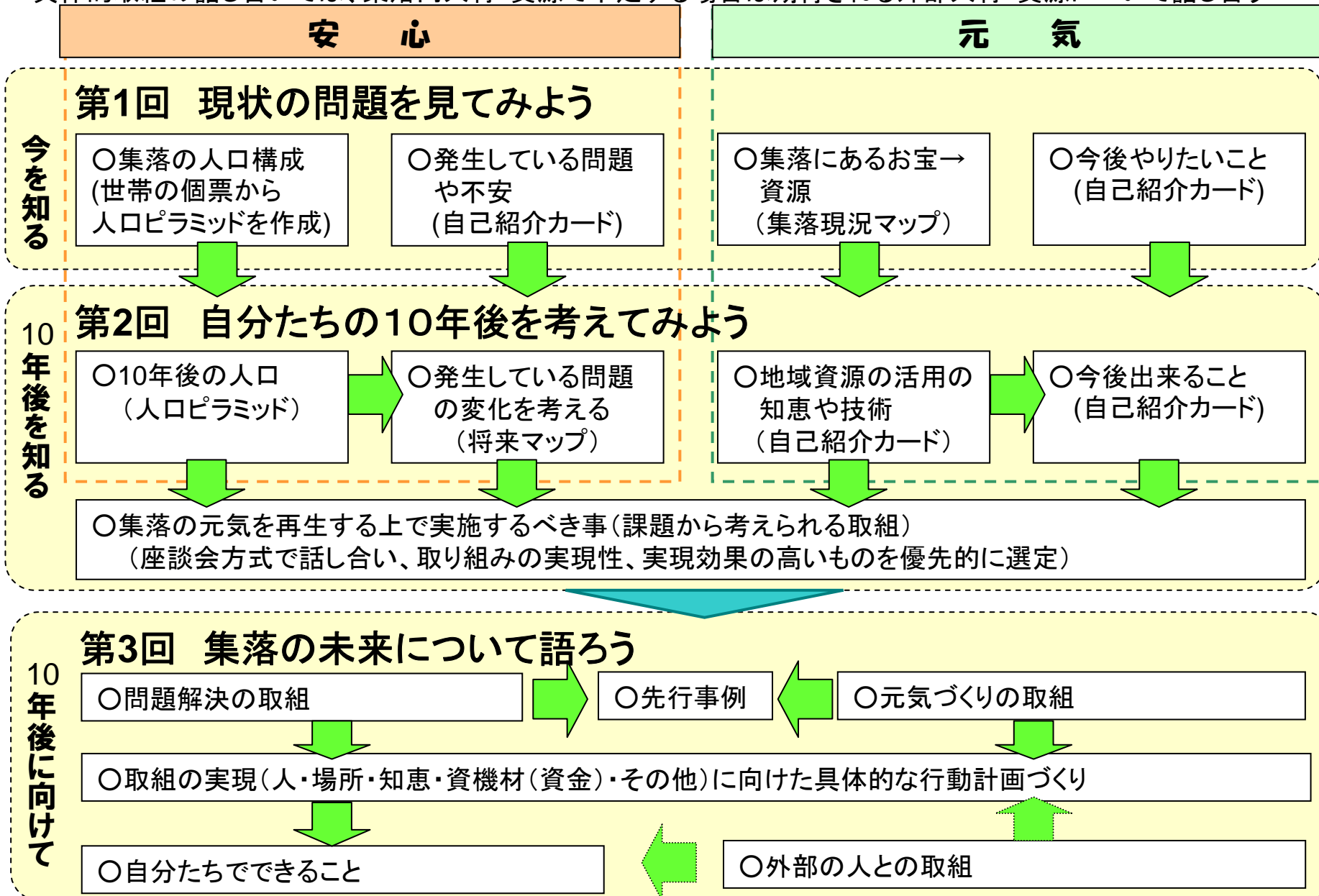
10年後の集落の姿を考え、集落の問題・課題の抽出と取組の話し合い

第3回 集落の未来について語ろう

集落の問題・課題を解決するための集落元気づくりの具体化

2 ワークショップの目的とシナリオ

- ・ワークショップは集落の「安心」と「元気」についてその現状・将来の姿から今後の取組(外部支援含)について話し合う
- ・具体的取組の話し合いでは、集落内人材・資源で不足する場合は期待される外部人材・資源について話し合う



3 ワークショップの内容

第2回 自分たちの10年後を考えてみよう

【目的】

- ・ 第1回で話し合った集落の現状認識から、10年後の集落の姿をマップ上に作成し、そこから考えられる集落の問題・課題について話し合う。
- ・ 問題・課題を項目別にとりまとめ、それに対する取り組み（集落元気づくりの取組）を話し合う。

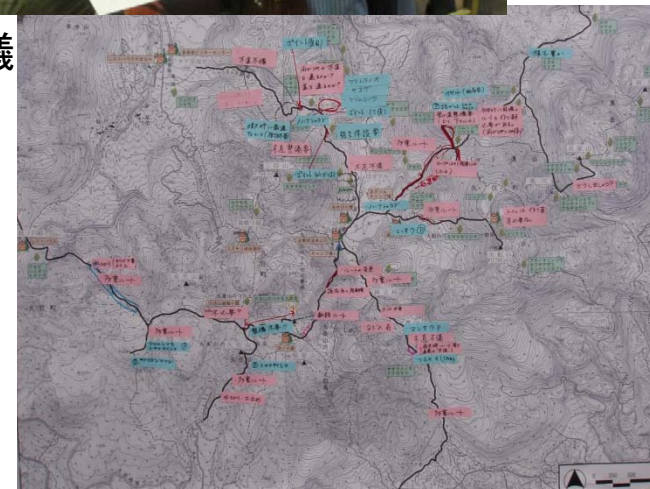
プログラム（概ね3時間程度）

- ①開会挨拶
- ②今回の目的説明
- ③第1回ワークショップの振り返り
- ④10年後の集落の姿を考える
10年後の人口ピラミッド・集落のマップ
を作成する。（人口・世帯推移、空き家の増加、独居の家、耕作放棄地、共有資産管理、鳥獣被害等を予測）
- ⑤将来の問題・課題と取組の話し合い
（座談会）
10年後の集落の姿から、集落における問題・課題やそれに対応する取組について話し合う。
※問題・課題の整理の項目としては少子・高齢化、空き家、耕作放棄地、災害危険、地域資源管理、Uターン・他出者の交流等が考えられる。
- ⑥成果のまとめ
- ⑦閉会挨拶 次回日程連絡等

作業イメージ



グループ別討議



集落の問題・課題を付箋紙で記入 4

3 ワークショップの内容

第3回 集落の未来について語ろう

【目的】

- ・ 第2回で話し合った集落の問題点・課題を克服するための取り組み（集落元気づくりの取組）について話し合う。
- ・ 取り組みを行うための具体的な行動計画（体制、役割分担やスケジュール）について話し合う。

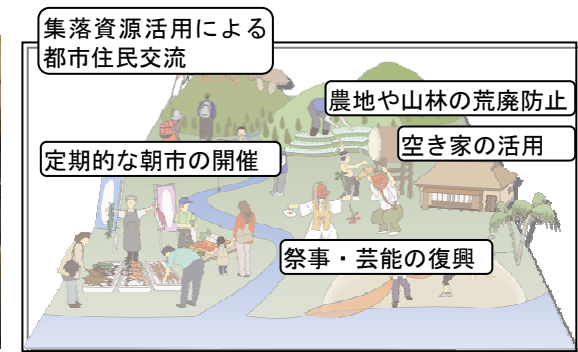
プログラム（概ね3時間程度）

- ①開会挨拶
- ②今回の目的説明
- ③第2回ワークショップの振り返り
- ④集落元気づくりの中心的取組について
※抽出した取組毎にグループ分け
- ⑤取組の具体化・役割分担
※取り組みは、その内容、活動主体、時期、必要となる資源・資金等記載
※集落からの他出者や血縁、支援組織等外部からの支援の役割も検討する。
- ⑥成果の発表
- ⑦閉会挨拶

作業イメージ



支援者も含めて議論



集落元気づくり取組イメージ

取組の具体化・役割分担のイメージ(例:ふるさと祭りの開催)

取組項目	取組の詳細	自分たちですること
人・組織	祭開催に向けた話し合い 当日の運営者の確保	開催に向けた話し合い 祭り運営(10名)
場所	〇〇川の広場 〇〇小学校跡地	会場の設営(青年会) 〇〇川(鮎つかみ取り) 〇〇小(神楽・体験・ふるまい)
資機材(資金)	テント、 鮎、ゆず	〇〇小学校から借用 鮎・ゆずの調達(JA〇〇)
知恵	郷土料理の復活、 神楽披露・体験	〇〇さんが中心にメニューを立案(婦人会) 神楽の会による舞(神楽保存会)
情報発信 その他	手紙、道の駅、呼びかけ	各自知り合いを誘う(住民)

実現への課題整理を通して、外部からの支援の役割も検討する